

江陽屋形年譜

				和書門
			二	
			一	
			四	
			九	
二冊	架	函	號	類

332

庫文閣内				
五	四			和
五	三			書
函	五			
一	七			
九	九			
架	號			類

内閣文庫	
番號	和 42579
冊數	2 (1)
函號	155 332

155-332

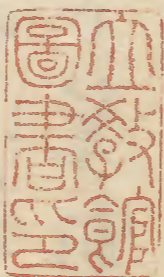




江陽屋形年譜卷之一

天文六丁酉年七月三日公方義晴公

御誕生



辰ノ刻ナリ後ニ千歳君トス

五日近国ノ大名太刀一振ヲ以テ誕生ノ君君ニ献ス

屋形劔頭ノ御太刀一振献セラル

九日君君七夜ニ當ル依之八幡工御参詣供奉ノ

行烈多キニ依テ日記ニノセス

十三日内ノ公方ノ仰有テ今日吉日屋形ノ御姫

女ヲ二條晴良公ニ嫁セ玉リ馬淵丹後守實冬

沢田兵部少輔重宗兩人ヲ女佐ノ臣ニツケ玉フ



南郡ニテ五百貫ノ地ヲ御嬭君ニ進セ玉リ
十五日竜光院殿ノ御為ニ田上ノ報恩寺ニテ御
吊アリ今日ヨリ十七日ニ至千部アリ進藤山城
守貞方乳權之頭吉武經中ノ変ヲ奉行ス
北四日月賀多伊豫守入道徳元卒六十三
八月朔日伊豆國ノ北条氏細己被遣^{サレツカハ}シ使ニ昂嵩
豊後守貞兼帰國メ返状ヲ捧ク去ル七月十
五日ニ官領上杖立席朝定武元河越ノ城工北条
氏細亥ノ刻ニ取カケ夜軍又上杖朝定敗ルニテ
自害スルノ由委細ニ言上ス

十二日屋敷御立願ノ変有テ其浦越後守高
光ヲ山門ノ中堂薬師ニ御代泰ニ被遣是ハ
當年疫病ニテ國民多死スルノ故十同日和田
源内左衛門ノ苗^フ庶ノ薬師又ツカハサレ都^ノテ
三ノ死スル者江ノ内ニテ三千七百八十人ナリ○元四年當年野
當年疫病臨時ノ奈礼ハ^テ凡^ソ浦生郡例郡
邦テ佐木宮
ヨリ奈礼ノ騎馬ヲ出ス^キノ由被仰付依之禮
頭ノ面ニ美ツクシ善クツク

九月三日屋形ノ伯父定頼ノ頼ナリ依之長樂寺
ニテ千部ノ妙典アリ近藤若狭守宗武奉行ス
ス
八日長樂寺ノ住僧口論ス忽及喧嘩僧九人當

坐死ス

十五日夜觀音寺ノ下馬ニテ野村主膳正卜高坐席
次席卜先後ノ筆ニ依テ喧嘩ニ及テ高山當坐
ニ死ス野村ハ數箇所痛手負ニ今宵子ノ刻
死ス彼下人四十一人疵ヲ負當坐ニ死ス者三十二
人ナリ

北昔志賀郡衣川山ニ天神ヲ勸請凡官中
ノ奉行ニ和田兵少輔貞光ヲ被仰付

北九日志賀ノ唐崎ノ宮ヲ造營ニテ奉行ハ
永田氏ヲ少輔貞重ヲ被付

十月五日依テ本宮ニテ護摩ヲ被仰付山門尊光

法印今日ヨリ七日ノ向被修是ハ屋敷御病氣ノ
御祈ナリ

九日京極ノ二男刑ノ大吏頓死ス三十一歳〇十七日

屋形上洛廿一日御席城今日伊賀ノ河合安房

守實之病死ノ由テ言上ス年来御旗下ノ人

夕ニ故ニ屋形甚悲玉

北四日比良山ノ西ノ山峯ニ麥岩ヲ御勸請凡屋形
去夜不思議ノ夢想ニ依テナリ

十二月二日京都六角ノ御館ニ付リカニ三井豊前

守市ヨリ公方御不例ノ由言上ス依テ屋形今日

上洛例ニ替テ旗頭六人等細共ニ被召連目加多

相模守長後馬測遠江守實細和合越後信
方和田中書丞貞繩清井左近將監長家伊庭
部少輔實宗右六人ハ江花旗頭四十六人ノ内ナリ
十六日公方御不例快氣此ノ故ニ今日屋形江花
ニ歸城午ノ刻大洪水野洲ノ河堤ヲコス村三箇
所水ニシテ

廿一日石山ノ住僧ヨリ言上ス去夜子ノ刻ニ勢多
橋ノ下ニ一人ノ女水ノ上ニウカミテ午ニ火ヲ持テ橋ヲ
ヤカントシテ終ニ水中ニ入ノヨシヲ申ス

廿三日栢原上菩提院焼上ノヨシヲ言上ス廿八日ヨ
リ廿九日ニ至テ雪降ル一丈二尺百年以來江花

ニテ八十キノヨシヲ云

十二月四日去月大雪ニテ當城鎮守觀音堂回
廊破損ス依之池田孫十郎ニ今月中ニ成就可致
ノ由仰付ラレ大工三百人ヲ以テ廿日ニ造畢ス屋形
甚喜悅シテ池田ノ蒲生郡ニテ三百貫ヲ玉ハル
六日午刻地震又大彗星出ル同廿日ノ夜ニ至
テ消失ス

九日河内園ヨリ早馬ヲ以テ言上ス若江城主君
江下野守兼後逆心ヲ仕リ近邊ヲ燒拂由リ
言上ス是屋形ノ旗下成ル故ニ公方ノ御下知
請ケルニ不及算作義賢ヲ大將トシテ七午組ノ衆

日加多馬劔伊度三井三上落合池田等リサレ
二百八十騎ニテ河内ニムケケル義賢今月十日ニ江
尻リ立ケ十三日ニ彼地ニ軍備リナス下野守父因休
八十餘歳ナレカ城ヲ出義賢ニ向ケ降参ス其
言ニ曰百姓等守護リカレト云レ依テ愚息下野
守彼ヲ討ト存レカ故ニ如此ニツク夕屋敷ニタイト恨
ナキノ由リ云義賢先江尻石田末工之助リ
以テ此旨ヲ言上ス屋敷ヨリ進藤武藏守息
小太郎 後山城守ト云ケ被遣若江下野守父子リ
高野山工追心竟ラシ若江ノ城ヲ掘江河内守

時秀ニアツケケル十八日三上美作守安貞重病死
行年六十歳

天文七戌戌年正月朔日ヨリ十四日ニテ例年ノ如ク
例年ノ如ク御作法記ニ及ハス

十五日御旗ノ祝義今午年ハ三上美作守率
スルノ間御旗ノ櫃ヲ田上甲斐守ニ御字リ五フ

テ實國ニナシ彼ノ櫃ヲ御國間床ニカサレ
十八日傳々本宮御社參供奉ノ次第例年ノ如ク
不及記

廿日堅田ノ浦ヨリ琉文宮ノ壺ヲ海中ヨリ引上レ儀

初立郎三郎宗清是ヶ上ル所屋形青山左
近大夫勝重リ以テ公方義晴公之献公方甚
御自委ナリ

廿八日ノ夜馬捌源太郎重細口館ヨリ火出テ
侍屋敷七十二間寺社十二箇所所四十二所成ノ
刻ヨリ明ル卯ノ刻ニテ焼失ス

七月七屋敷ヨリ今度火災ニ合クニ者共ニ山ニテ
分限ニ隨テ竹木ヲ五ハル八日長光寺ニテ今年
ヨリ初テ如來誕生會ヲ被仰付奉行ニ后桐
土佐守實貞身ヲツカハサレ

○廿一日伊賀ノ服ヲ伊賀守實詮去ル廿五日

六十三歳ニテ卒スルノ由告來遺物ニ屋形
号道士カ觀音ノ繪ヲ献ス屋形年来ノ奉
公ヲ思召御悲不尋常彼繪ヲ以テ著作
山ノ峯ニ一字ノ堂ヲ御建立有テ新觀音寺
ト額ソウチアカメアリ彼繪ハ服ヲカ家ニ代
相傳ノ希代ノキバイ多キヨシナリ

三月三日佐々木宮御祭礼例年ノ如ク屋形病
氣ノ義ニ依テ御社参トシ著作義賢例年
ノ如ク将衣束ニテ社参トシテ

同日御一門ノ面々曲水ノ宴アリ○七日今日石清
水ノ臨時ノ祭ナリ依之平井石見守昌細ク

御代番と被遣

八日公方殿下にて阿波助次郎ト白山修理大
夫義忠ト喧嘩ニ及テ助次郎ハ當座ニ死ス白
山三山所疵ヲ負依之白山妙心寺ニ入ル其意
旨旨ハ白山ノ娘ヲ河波助次郎内ニ取却テスルニ
高木義弘一嫁ス是ヲ以テ助次郎恨ヲ深
クヨシナリ

十四日桃井民部ノ少輔輝重カ原立一通ヲ以テ
公方上言上ス是ハ父先年遠流セウシ配所ニイテ
死ス當年ハ五年ニ當テ彼息源立如此ノ公方甚
志志リカシト近習ニ召加ヘテ

廿二日洛西ノ法住院御病氣ニ付高宮飛彈守
ヲ被遣是ハ屋敷ノ一族ナリ
廿八日午ノ刻大雨甚クシテ野洲川ノ堤キレテ
田ノ郷津田ノ郷幸河郷民屋九百間水ニテ
近年十キ大水ナリ

四月二日今川五郎氏親ヨリ使郎アリ来五月上洛
ノ義リ穴窺フ屋敷ヨリ返書アリ先延引可然ノ
由ナリ近年義親公方ノ御色不好ニ依テ如此
十三日錦織氏ノ少輔常義ニ志加賀郡ニテ千貫
ノ地ヲ玉フ是ハ新羅三郎ハ二代ノ孫ナリ屋敷
常ニアハシミテ深クシ玉フ人ナリ

十九日甲斐ノ武田信虎ノ伯父信國甲斐ヲ退キ江
呂ニ来ル屋敷ノヨリ此人ヲアハシ之後長濱初メ
信國ト申ハ此人ナリ

五月五日佐々木宮奈礼屋敷ニ箕作義賢公
八幡山義昌公御一門例年ノ如ク将衣束ニテ
御社参次ノ日御能アリ

同日蒲生郡ト野洲郡ト毎年童子ノ石合
アリ當年ハ成人ノ者出テ太刀打ニ成テ雙方
死人百三人此ノ旨ヲ屋形岡召テ堅ク禁メ玉
来年ヨリハ十五以下ノ童ノ外一切不可立出
是ハ武ノ家ニアラシ童ニ知サヨリ合戦ノ思ヲ

シラセシカタメナリセウブ切ト云ハ是ナリ何ノ意上草
クシテ人ヲ害セシヤトテ一郡一郡ニ制法ヲ出サレ
十六日千葉刑部サ輔胤彦子ノ輝胤ニ所領ヲ
押領セウシ國ニ居住シカタキニヨリ當家ニ来リ
今日初テ登城ス後志那ノ刑部ト申ハ此人ナリ
三百貫ヲ被下此人ハ千葉忠常ヨリ廿一世ノ孫ナリ
廿三日千葉刑部サ輔清胤重代ノク下霜ト云
太刀ヲ屋敷ニ進ク屋敷不請千葉重代何ハ他
家ニアワテ用ナシ其孫ニ傳テコソトテ返シテ
彼ノ太刀ノ作ハ貞宗ニ

六月三日崇光院ノ御吊アリ坂本来迎寺ニライ

予千部ヲ被仰付黒田大學助宗細奉行ニ是ハ
屋敷ノ祖母三木政知公ノ女ニ六日村井越中守
貞成卒ス四十三歳

十四日公方弟三御姫君九歳疫病ニテ逝去ス
廿八日雲居ノ屋子ヨリ須佐越後守以テ重代
ノ藤壺トシテ大刀ヲ屋形ニ献ス此大刀ハ源頼朝卿
ヨリ出雲ノ元祖義清ニ下シ而シ石橋山合戦ノ
時モ佩タレ大刀ナリ

七月六日屋形ノ御先祖秀義公卒忌々寺
長命寺ニテ万部ノ妙典アリ朽木民戸少輔
細高嶋越中守實細奉行ス

九日朽木種細カ家人平野源ハリ夏ノ子細
ツテ高嶋越中守是ヲ討之依朽木ト高
嶋大キニ不和ニナリ既ニ合戦ニ及ビトス人由今
日長命寺ヨリ言上ス屋形園召兩人ヲ召寄領
内ニテエワシ大原伊豫守春細坂田兵戸高秀
兩人ヲ經中ノ奉行ニ被遣○此日比良ニテハ講
アリ是ハ當年初テ被行毎年ハ講ハ各別ノ
義ナリ

八月四日志賀郡雄琴ノ莊ニ新城ヲ建ラレ
是ハ京都上洛ノ刻休息ノ御為トシ御
下心ハ山門ノ惡逆アリシ時ノ為ト見タリ同郡

小塚山ノ城ヲ破テ今雄琴ノ城ヲ建ラレ小
塚山ノ城ハ昔日公方義高公ノ御城ナリ義
高公大永六年天下逆乱ノ時此城ニ移玉ヒ
ニナリ○廿日山門慈惠大師ノ廟ヲ高嶋郡
中村ノ庄ニ建ラレ屋形甚此ノ大師尊ニテ
故ナリ慈惠大師ハ生所高嵩郡中村ナリ如
此又元三大師トモ申奉レ彼堂ノ奉行栴
左末尉宗細ニ被仰付

九月三日近衛植家公江尾觀音城ニ移
リ玉リ○五日植家公屋形御同舟ニテ竹生
嶋一復リ玉ヒ今宵彼ノ嶋ニ宿ニテ○近衛

植家公御詠歌アリ○七日近衛植家公上
洛屋形ヨリ馬淵同幡守ヲ道中馳走ノ為
ニ被付○廿日日野蒲生忠次郎氏定カ
女房ヲ野狐ニトウシ己ニ其女房ニカワリ
此年ニテ三年氏定ニキリケテ今月十八
日彼女房本身ヲアラウシ狐ト成テ去ノコト
ヲ今日蒲生氏定カ方ヨリ委細ニ言上ス息
蒲生忠三郎ハ彼ノ狐ノ子ナリ希代ノ夏十
リ本ノ氏定カ女房ハ目賀多カ女十何方カ
行ケシ終ニ行ヘテ知ストイフ

十月五日伊吹山ノ權現堂御當家十六代滿

高ノ時建立ノ儘ニテ終ニ造營ノ義十ニ依
之今度造營ノ義ヲ今日北郡ノ旗頭衆ニ
被仰付テ六日ヨリ亥初メス○十五日屋形京
極ノ亭ニ移リテ三日江北ニ逗留彼ノ亭ニ
シイテ真獨子孟子告子篇ヲ讀時ニ和歌
一首ヲツラ子テ

利歎ニハ四ヨリヨリヒクク人ハ身ハウワ蟬ノアヒニキキ
京極是リ真獨子ノ命メ一卷ヲ作ス即彼ノ
篇ノ内學文之道無他亦其放心而已矣ト云
ク歌ノ題トナシス変多ニ依テ日記ニノセス
十一月八日延曆寺ト比良山ト宗論ノ義有

テ山門ヨリ大衆八百人夜ウチニ入ル比良山ノ堂
舎北七箇取リ焼ク比良ノ衆徒四十八人討死
ス山門ノ衆徒三十人討死ス山門ノ衆徒三十人
討死ス此由田中坊貞成カ方ヨリ早舟ヲ立テ
觀音城ニ言上ス今日御評義アツテ山門ニハ
軋河内守盛國ヲ遣使比良ニハ沃田兵ノ少輔
重宗ヲ遣テ論天台座主青蓮院ノ御門主
江昆ニ移テ屋形ト内意有テ今日山門比良和
睦ス

北三日京極家ノ居城炎上ス○北九日大津町早
二町當火ノ為ニ焼ク

十二月二日近藤若狭守宗武率行年五十三歳○昔近藤宗武實子十十之儀之彼ノ後家はリ十ヶキ言上ス仍テ沃田兵戸少輔カ二男ヲ彼ノ後家ニ与ヒテ中枝ノ庄ヲ被仰付

十八日觀音城ノ鎮守ニ御社奉例年ノ如ク○廿日ヨリ晦日ニ至テ御一門并旗頭ノ面
面歳末ノ礼アリ○廿八日佐々木宮御社奉例年ノ如ク御社ニイテ大神樂
供奉次第例年ノ如ク御社ニイテ大神樂
アリ
天文八己亥年正月朔日ヨリ十日ニ至テ出仕ノ

面々例年ノ如ク○十日屋敷上洛其作義賢八幡山
義昌公同上洛ス廿日屋敷江城ニ歸坐八幡山ノ義
昌今度四品少將ニ任ラシテ高公方御内意
更右テ在京ニテ

廿三日大雪雨ノ刻止○廿八日河内ノ國若江城主
堀江河内守時秀登城ニ因後太刀ヲ歎ス屋形
時秀ニ命ノ曰堀江ハ當家ノ庶流ナリ家紋ヲ免ヒ
テ是ヨリ堀江家ニ四目ソツクル

二月八日長命寺庄寺ヨリ火出テ本堂ニ至テ一
宇ニ不殘炎上ス○十一日地震河内陀寺ノ宇
御影堂破倒ス○十五日江名ノ八幡ノ宮震動

不依之屋形ヨリ大神樂ヲ被行○十九日若
狭国栗屋右京方ヨリ白馬ヲ屋形ニ献ス八
寸ノ馬ナリ名ヲ白浪ト云○廿四日公方委岩山御
参詣相徒ノ大名ハ一色左京大夫義宗山
名兵ノ少輔義重細川修理大夫晴元息山修
大夫義忠今川刑ノ大夫義元佐々木右衛門督
義賢佐々木左馬頭義昌武田大膳大夫信政赤
松左京大夫晴政御近習ノ面々記々不及屋形勢
打立テ後年ノ下刻々登山ス公方山三日ノ御
御逗留廿九日二條ノ御所ニテ御能アリ公方
ヨリ国大名ニ太刀一振ヲ玉ハル

三月四日ヨリ十四日ニ至テ大洪水江尾ノ海九合ニ成ル
十七日勢多ノ砂普請ヲ被仰付大津主膳正清宗
奉行ス○十九日勢多ヨリ飛脚到来ス今朝仰下刻
人夫三十人水中ニ一度ニ引コムノヨシ言上ス寔ニ希代
ノ不思議ナリ○廿七日雲居ノ尾子義久今月十三
日卒ス屋敷ニ子息實久ヨリ父ノ遺物トシ顔輝カ
鬼神ノ繪ヲ献ス此ノ繪ニ付テ希代ノ義アリトテ
一書ヲテハル
一國ニ兵乱有ル時必此ノ鬼神眼ノ内充ル夏
一風氣ノ者ニ此ノ繪ヲミスルニ必其病氣ヲ失フ夏
一國主國ノ政ニシコタリ有ル時ハ此ノ鬼神面目朱ノ

如ク成レヌ

此ノ外種ノ更ク書付ル日記略之屋形甚其人々
惜クモリ此繪一畝ヲ見玉クテ曰鬼神ニ更ク見ルテ
十人間一生ノ善惡方寸内ニ有テヨクシク物ト仰
モリ

四月五日朽木民ノ大輔植細重代朽木丸ノ太
進献ス是ハ先祖朽木出羽守義細ヨリ傳ルヨ
ナリ屋形仰ニ曰是ハ朽木家ノ重代ナリ子孫ニ傳
ヘラシヨトテ植細ニカシマクモリ ○十四屋形多賀
社ノ御山ニテ庶ク狩ル一身ニ頭ノ庶クトル希代更
ナリテ公方更献ス其ノ後主上ハ上レノ由ナリ

十一日若狭ノ武田信政正貞頼ノ御息嫁モリ西片
左右衛門ノ女佐ノ臣ニワケモリ 實ハ大原高保ノ女
ノ○十八日京極三郎高勝卒ス遺物ニ虎風ト云太
カ王摩 誥カ山水ノ繪ヲ屋形ニ献ス屋形甚慈傷不
常 ○廿三日日上報恩寺造營ノ義ヲ野村丹後
守ニ仰付ル廿四日ヨリ更初ス右此寺ハ昔日源ノ
頼朝郷 菩提所ナリ即 二品ノ證文アリ
廿五日伊庭ニテ大追物ノアリ委細ノ更記ニアタス
廿九日今日江南江北江西江東ノ面ニ代ノ證文ヲ
被改記録所ノ日記ニセラレ
五月廿日佐々木宮祭礼例年ノコトニ○十二日江

石一園ノ浦ニテ引アミテ止メウシ山田ノ二園所ハ
仰付ラレ今日御一門ヲ堅田山田ノ各主等ニ被
下〇十五日勾ノ御取御普請ノ夏初有青地
紀伊守秀實奉行ス〇九廿日高嶋郡ヨリ北
九年以前天物ニウラシク者古傳ニ帰テ希
代ノ夏ヲ語ン今日高嶋越中守方ヨリ觀
音城ハ彼者ヲサシ上ニ屋形彼者ヲ御園ノ間
ノ庭中ニシテ馬例深意齊ヲ以テ夏ヲ伺テ
ニフシキノ夏ヲ語ン其後高嶋ハカヒ玉ヲ後行
一ナリナクテス

六月三日箕作山普請初メ有前ノ城ノ方四町ヲ

ヒロク建テ左近大夫信勝山田掃テ頭秀成奉
行ス〇十日公方鞍馬寺ニ参テ二日彼ノ山ノ御
還留屋形ハ亀華紙ノ大原ニヨリ彼山ニ入玉
ノ當年京都ニ有合同ノ大名小名不殘供
奉ス〇十日惣力多ノ橋ヲ造テ由永田右近
大夫秀重ニ仰付ラレ此橋當年ニ至ラ廿一
年コノノタリ

十七日雄翠宮造營アリ和曰兵内左衛門
貞秀ノ藤井豊前守貞房奉行ス
廿三日今上白皇帝御惱依之諸社ニ奉幣使
リ被立同ニメ大般若經ヲ修ス

北七日屋形石山参詣し馬ヲ大津へ四日逗留
七月八日京都ヨリ上使アリ公方北山ノ御遊
ノ義ナリ御使ハ中西形ノ御輔晴秀依之屋
形北三日江東ニ帰城

十九日比良大光院ヨリ火出十七坊焼失○廿日
越前ノ朝倉彈正忠ヨリ使節アリ大陽寺栗
毛トモ名馬ヲ進献ス一日ニ三十里ヲ馳ス
ヨシナリ屋敷甚御自責○廿五日若狭國ノ濱
ニ三頭一身ノ子ヲ生ムヨシ武田家ヨリ言上
ス前代未聞ナリ

八月十日公方近國ノ大名ヲイサシ泉ノカガシ

濱ニアツビ玉ヲツレヨリ紀元和歌ノ浦ニウツラヒ玉ヲ
○十二日細川六郎三郎頼死○十七日大雨洪水江
原ノ湖七合ニ満ル河内ノ国水ニ流ル村都ヲ七ナケ
取ナリ○廿六日公方紀元ヨリ御帰洛屋形今
日江東ニカニ

九月二日一國子ト云者江東ニ来ル屋形彼者
ソアワシム元来一國子ハ大明全羅道ノ者ナリ日本
ニ渡テ神道ヲ学フ今日屋形ハ曰善要使法
ルニ変ヲ傳フ屋形彼ノ一國子ニ鳴絃ヲ傳ヘ
テ○十日越前ノ永平寺當住今度上洛ノツ
イテ江東ニ来テ今日登城屋形甚賞シテ

廿日觀音城、滞留ナリ
十三日屋形觀音堂ニ移リ、再テ屋形永年寺
ニ同日ク如何是此 景谷曰清風白日又問
如何是今日ノ夏谷曰清有任無此ノ後數
刻法問アリ且日記ニセス

廿六日多賀ノ社造營ノ夏リ、池田丹後守、
仰付ラレ、今月廿八日ヨリ其夏ラ、初ム大伽藍
ノ故ニ數年リ、經キノヨシク池田言上ス

十月五日大風比良山門ノ大木多吹ス、三上ノ社
破倒ス

十日三上社造營ノ義ラ、木村佐渡守貞景

ニ被仰付番神ノ其ノ一ナリ

廿五日北野ノ宮大破、及テ依之公方ヨリ上野
民ノ少、神晴光被仰付、今日ヨリ夏ラ、初ム

廿九日伊豆ノ國ヨリ東ノ國ニ疫病ヲ死者者
千ニテ、ミチケテ其ノ番國土ニ滿クテ尚ク病死ス
凡者絶一サレノヨシ、其ノ國ノ守ヲ護ヨリ、今日言
上ス

十月八日久徳左馬元光成テ常陸、依行ニ被
使、十四日當家ノ流々シテ改テ國々ノ庶流ニ
被觸金泥ノ系圖ノ卷ニ被入、廿廿當家ノ御
先祖鎮守存將軍技義公御年忌ヲ被吊

田上報恩寺ニケイテ千部ノ今日ヨリ初分
十二月十二日大原丹後守貞綱ト寺田掃戸致盛
時ト所領カクイメノ公度有テ今日屋形直被聞
之寺田非義ニ依テ改易ニテ長光寺ニケル
北五日樽崎越前守實春歳末ノ御礼上京
ス屋形不例ノ義アニ依テ如此
北八日御舎弟義昌ニ青地ノ庄ケル
天文九庚子年正月朔日天氣快晴御作法例
年ノコトシ○十日屋形上洛十七日江城今月下
旬ヨリ天下大疫ニテ甚ニ至^ニ死^ス者數ヲ不知依
之公方ヨリ國ニケイテ大般若經ヲ讀^キヨ

甚ノ國々ノ守護人ニ被仰付○北四日天ニ毒
氣立後ニ黒ク成未申ノ刻ナリ北八日ニ至
二月八日妙心寺燒亡堂塔不殘○十日大原寂光
院上人妙海九十七ニテ化ス是ハ屋形ノ伯母ナリ
十九日關東ノ晴氏上洛江東ニ至テ三日鳥本ニ逗留
屋形ヨリ目加具多ク以キ晴氏ヲ觀音城工招請
ニケリ○北八日公方ノ御連枝北山ノ庶苑院殿江
東ニ移リケリテ三月八日ニテ御逗留
三月八日庶苑院殿帰京屋形高官滿中守秀
重テサシツケラ○十日地震申刻竹生嶋ノ西ノ岩
海ニ入ル北二日幸津川ノ新何大明神崇リ有テ

彼ノ在所ノ人民甚クシウヨキニ依テ吉田殿ニ
穀圃ニ達シ正一位ノ号アリ仍テ彼ノ明神イ
アリクニマアリ

四月三日山門ノ恵心院僧正觀音城ニ入来屋形
甚賞シ五ノ屋形河字ノ本躰ヲ尋玉ノ右ノ
文ヲ屋形ニサツケ玉フ密法十ハ屋形傳受ノ御
度ハ日記ニハノセス○九日大洪水民屋破倒ス常樂
寺ノ本堂ノ西ノヒサニ雷落テ塔舎多燒失ス
同今日午刻公方ノ御所南ノ門ニ雷ヲ午テ御
三箇所燒上ス
廿四日公方妻宿山ニ参リ廿五日歸洛

五月三日公方若君十歳九瘡^{あう}癩^うハ十少ニキニ依
テ近國ノ諸社ニ御願アリ後義昭公ト申ハ
是御方ナリ○五日江尾御社ノ祭礼當年ヨ
リ金銀ノ銚ヲ渡サレ都テ十二本

十五日公方ノ御姫君ヲ内ノ義有テ今日
屋形ニ御輿ヲ入ラレ義輝公義昭公ノ御
姉ナリ公方ノ長女ナリ上野丹後守晴重
長岡大膳大夫晴時兩人女佐ノ臣トノ江尾ニ住
ス○廿日公方ヨリ播磨明石ノ郡賀言ノ郡佐
用ノ庄ヲ屋形ノ御前ニテイラセ玉フ
同日屋形ニ白浪ト云名馬山踏ト云御太刀并ニ

美作国英田勝田ノ兩郡ヲ進下しあり
廿七日屋形上洛今度ハ例ニカワツテ七年組御
一門ヲ召連らん江城ヨリ京二条ニ至テ先
後ノ勢ホツク寂ハ十ヤアナリ
廿八日屋形ヨリ公方へ御進物白銀一千枚續
百卷鞍置馬十匹江尻長濱諸白十樽當
家重代ノ細丸ハ太カク進献しあり
六月四日屋形御一門帰国○八日公方御不例
依之諸社ニテ諸社ニノ讀經アリ
十七日天青筋西ヨリ東ニ至ル年未ノ刻今
日ヨリ十九日ニ至テ消失ス○廿三日當国白髮

大明神宮造營ノ義被仰付津田權内高
光奉行ス

廿九日白髮社ノカミニ伊勢カノ御社ヲウツレ
晦日、地ナラシマリ後ニ白髮ノ岩戸ハ此所
ナリ

七月二日二条晴良公江尻ニ来リ玉ヒ十二日テテ
觀音城ニ御逗留屋形甚當員ニあり

八日屋形晴良公上調子ノ変リ同玉リ晴良公
則一卷ヲ屋形サツケ玉リ後ニ屋形四十六人
旗頭ニ此ノ傳ヲサツケ玉リ依テ日記ニノセス

十二日晴良公ハ屋形ノ御婦ト十九故ニ度ニ江尻ニ

来り玉う

八月十二日屋形ヨリ二条晴良公へ圖竹之義
リ同ニ被遣目賀田伯耆守上洛ス十四日目
賀田京ヨリ帰國ニ則晴良公ノ御返度ノ
上リ圖竹ノ繪アリ日記ニノセス旗頭中へ相
傳惣屋形ハ何度ノ秘傳リモ皆國ノ旗頭ト
ル者ニ不殘傳ヘ玉フ

廿八日青蓮院ノ御門主觀音城ニ来り玉フ四
逗留ナリ屋形筆道ノ度ヲ傳受アリ川曲
又市沢井角石糸門建アヤハ郎此三人ハ江
一ノ能書ナリ然ルニ門主彼ノ三人カ手跡ヲ見玉
テ額ノズルニシテ玉フ是ヨリシテ江瓦ノ因ニ
テハ俗ニ三跡ト云

九月十日山城國柵尾ヲ江瓦ノ岩山ニ移サレ公
方ヨリ明惠上人ト云四文字ヲ主上へ奏聞申
セ再ニテ勅筆ヲ添サセウシ今年ノ刻ニ入寺ス
屋形奉行トシテ黒田伴賀守秀乃ニテ被遣
十二日志賀ノ郡雄琴ノ里ヨリ和田兵庫頭
光時言上ス其故ハ今十日海中ニ光リアリ里
人此ヲアヤシメテ見ニ一併ナリ則惠心ノ僧都
ノ作ノヨシ申ス則彼ノ里ニ成就光院ト云寺
ヲ建ラシテ彼ノ佛ヲスヘ玉フ其外不思議ノ

夏多し日記ノセズ

十月此コロ公方松木殿ハ公家ヲ甚キヤウアリ
ナリ依之彼ノ松木ヲ大臣ノ内ニ補社セラル
キヨモリ奏聞有ル禁中ニシテ諸卿評義
ルニ彼ノ松木家ニ終ニ大臣ヲフシタル例ナシ其
故大臣官三大臣其ニアケス此ノ義成ルニシキヨ
シケ公方家ニウツタラ公方大怒ヲサウハ儀
同ニ任シラレヨリテ終ニ儀同ニ松木ヲイタサシヌ
惣ノ東山殿代ヨリ今六代ノ公方家ニ至ル
テテ大ニ武ノ權ツヨクシテ國ノ大名公方ノ御連
枝ニツラナルホドノ人官位ヲ進ムニイトヤスシ皆

武家ハセメテ將軍ノマニモアリナシ公家ノ面
面撰家ノ御方マテ皆公方ノハカライナシハ官
親王ニ至ルマテ皆公方ノ御諱字ヲ請テツキ
再クナリ前代未聞ノ武家ノ行共ト真儒
ノ者ハ甚クシルト云此ノ時ノ落書ニ

權門ニ引マワサレテタヤナ松ハ榮田ノニ儀同ナ
北日屋形上洛七年組供奉ス義賢ハ御病氣
ニ付テ甚ク義十ニ八幡山義昌上洛ス
北九日山門ノ飯室ニ屋形菩提取ヲ建立シ
寺号大岩寺ト云

十二月八日屋形京都六角ノ亭ニシカニ目加多

采女正子八郎三郎當年七ツ成ん今年七月下旬名歌ヲ讀タレテ諸大夫ニ被成ナリ彼ノ八郎今月三日病死ノ由父采女正秀賢カ方ヨリ言上ス屋敷甚クシママアリ彼ノ八郎三郎七歳ニテ諸大夫ニ被任シ夏ハ去レ文月下八旬夜洛東ノ川原ニ出テ螢ノ飛カフヲ見テ

岩間岩花花ノ貴賤ノコシヲ傳ヘテモテハヤシケルおと今

螢ハ彼ノウツカサト云發句ヲウツクテハ洛中ノ

年八月ニ禁裏江召ヨラシテ常ノ御庭ニ参ケルニ勾當ノ内侍扇出し是こツキ一首ヲウツ子申ハキトナリ彼ノ扇ニ深山櫻ヲ繪ニカケリ目加多八郎是ヨモチケシ繪ニ山ノ櫻華アフギハ風ノヤトリ成リトモ

上甚御氣色ヨリテ當座ニ大夫ニ任シ玉と兩傳奏ノ御方ヨリ屋形ハ此ノ童子念比ニツタテ尚ク成人ノ後御歌所ノ寄人ニ可彼成ヨシ勅意如此冥加ニヤツケシ今月三日病死ス前代ニキカス希代ノ夏ナリト世ニ諷ス〇十五日公方江見觀音城ハナラセラル北八日ニ御帰京屋形此ノ間御馳走甚例ニナシ十八日伊庭ノ馬場ニテ御的有御照覽的終テ公方ヨリ御太カ一腰ツ十五人ニ玉ハ十五人ノ内又三人五度ツ射レ終ニ不中リ又ナシ名譽ノ夏ナリトテ御馬ツ三人ニ玉ハ十五人共ニ御近習ニ召ツカハレハキトテ屋形ニコイ取テ今北八日公方

御上洛、彼ノ十五人ノ者共先陳供奉ス彼等
父母兄弟喜悅不斜屋形之内ヨリ思召立處
ノ本意トテ不常氣色ヨシ此十五人ノ者後ハ
皆諸大夫或ハ四品ノ者多シ此内ニ新將軍
義輝公マテ奉公スル者三人アリ三好逆意ノ
時御取コ有テ働リ下知ズ彼三人ハ河端高木谷
口ナリ

十月五日三星寺ニ出ル今日十日ニ至ル戌刻ヨリ出
東コアリ

十八日三井寺ノ光隆院ヨリ大出ツ坊舎十七箇
取焼失ス○十九日園山ノ觀音寺ヨリ建立奉行ハ

永原大炊頭實冬、明ル二月成就ス屋形觀音
ヲ殊更コラセコイテ、ハ當城觀音ノ山ニテ
御先祖佐々木大明神彼佛ヲ鎮守トシ此
ノ山ニ任セ玉フ依之今ニ至テウヤテイ玉フ

北昔屋形上洛任從四位下行量近江守

天文十 年 丑 年

正月朔日ヨリ十五日ニ至テ御作法例年ノコレ
日記ニノスルニ及ハス○十八日竹生嶋造管見
ヨシテ今日後藤但馬守ヲ彼ノ嶋ニ遣使テ
舊例ヲ紀テ任先例ニ造管有ハキノ日トシ
リ

廿二日和回源内兵衛貞政方ヨリ天台ノ
座主慈鎮和尚ノ自誣ヲテ彼ノ手跡ノ
短尺ヲ屋形ニ進献ス歌ニ曰

ワレノ山有州ノ月ハメクリ来テ我カタツクモノモトシ

屋形甚御自責ノ後ニ是ハ山門ノ重宝十住

ハトテ正覺院僧正ニ送り則僧正是リ

山上ノ傳教大師ノ御廟ニコノラレノヨニナリ

廿四日先年勸請アリシ比良ノ妻岩ハ屋

形今日社參篲作定頼同義賢御同船

ニテ木戸ノ城ニ移リ玉フ今日山ニ御泰大

五日ニ江東ニ歸テ

二月八日八幡ノ宮造營ノ義ヲ彼仰付近
藤伊賀守貞方沢田兵ヲサ輔重宗奉
行ス右此ノ八幡ハ應神天皇六年ニ江臣
ニ幸シテ御哥アリ明レ七年還幸天皇
御自筆ノ卷物アリ然レ當家ノ御先祖
佐々木大明神天曆十年五月五日初テ當
國ニ住居シ玉フヨリ此ノ方此八幡リ氏ノ神
ト崇メ玉フナリ近江八幡トハ御夏ナリ委
ハ彼ノ宮傳記ニアリ
十七日大津ニ三面一躰ノ子リ産ス鳴声麻ノ
如シ前代未聞ノ義ナリ

北一日蒲生ノ河ニ大サ二尺四方ノ物アリ丸ク
ノ鳥ノカイコニトナラス屋形記録所ノ面ニソ
呼ヒテ古キ年記リ勤ヘサセヨリニ昔推古
天皇廿七年三月四日近江ノ國蒲生ノ河ニ有
物形如人ニテ眼鼻ナシト古記ニアリ屋形圖
召今度モ委細ニ記セトテ則日記トシテ
三月三日佐々木ノ宮ノ祭礼例年ノコト
屋形御病氣ニヨリテ社叅ノ義ナシ御曹子
御一門ノ面ニ社叅同日觀音城ニテ御一門
ノ面ニ曲水ノ宴アリ
西近江ノ鼠東近江ニ移ル屋形古記ヲ見玉

フニ天智天皇廿五年ニ京ノ鼠向江民移ル同
六年ニ終ニ都ヲウツサシテ志賀郡大津テ
住ニテトナリ屋形甚ワシトアリ
北四伊吹山ヨリ三頭一身ノ電ヲ献ス無極
ト云易者ニ是ヲト古リ以テ勤ヘサセヨリ
無極カ云ク今年ノ内ニ御曹子生彦彦
ニ後ニ江民三ツトシ嫡庶人々論アリト
云屋形誰シ有テカ如此ナラトテ御心カ
ケ玉ワス國人甚アブナリ
四月八日巳ノ刻屋形ノ御前御平彦若
君御誕生御母ハ將軍義晴公ノ御長

女十リ

九日江花ノ御一門并ニ四十六人ノ旗頭ノ面ニ太刀一腰ヲ以テ當御曹子ニ進献ス

十日今日京極高秀ヨリ重代ノ上虎前ト云太刀ヲ御曹子ニ被献昨日モ御一門ノ内ニ入テ太刀一腰ヲ献シ今日又如此ニヨリ十四日御曹司七夜ニ當ル故ニ今日佐々木ノ御社ニ社叅供奉ノ次多クヨリテ日記ニノセズ

十六日八幡宮ニ屋形御同道ニテ社叅彼ノ

宮中ニテ御曹子御名ヲツケラレ目加多宮ノ中ニ叅テ御曹子ノ御髪ヲカキ上ル彼ノ宮ノ祝權ノ守頼武御幣ヲ持来テ御曹子ノ頭ニサケリ即坐ニ御名ヲ飛竜御曹子ト祝ヒ奉ル佐々木ノ御代ノ家嫡ニ生シテ人ハ皆佐々木大明神生シカハリクテ今度ハ例ウカヘ玉ルトイハ代ニ皆佐々木ノ御社ニテ家嫡ノ御曹子ヲハ御名ヲハツケテ今度ハ例ウカヘ玉フ度如何カアルニキト國人甚マヤツメリ
九日公方ヨリ上野丹後守晴時ヲ御使トメ今度御曹司誕生ノ御悦ビニテ觀音城ニ

来着ス屋形ノ御前一綾五百卷 白銀千
牧公方代ノ御重宝ノ薬、定命久保教ト
云御薬ヲ送り玉フ 次ニ御夕ハフシノ御歌アリ

一千ハタニ強ニ今ク近江千ノ固モユカニ限リ
御曹子ハ万歳ト云御太カク下シ玉フ
廿八日雲名ノ庄子左衛門督ヨリ須佐兵戸
少輔光細ク以テ今度御曹子御誕生ヲ
祝シテ三沢丸ト云太刀并ニ伯耆栗毛ト云名
馬ヲ屋形ニ献ス

五月二日高嶋ノ横山伊豫入道久徳卒ス行

年九十七屋形甚カナシニ玉フ 此入道ハ屋形
五代ノ間ヲ奉公ニタニ公羽ナリ

五日佐々木御祭礼當年ハ屋形ノ御前
ヨリ金銀ノ鉾ヲ被渡五百人ノ童子一ヤラ
ニ金ノ簞ヲカフキワメニ是ハ當御曹子御誕
生ノ御願成就ノ義ト見ヘタリ

七日土山ノ田村大明神大破及フ依之彼宮
ノ神主権ノ太夫重治今日進藤兵戸少輔
ク以テ彼ノ宮ノ由来ヲ書文ニ作テ言上ス
屋形同名造營ノ義ヲ進藤ニ被仰付
土山ノ庄ヲ社領ニ付ラレ

十日土山谷ノ堂蟹カノ石堂ノ建らん舊
跡ヲハ少分トイハク委細ニク、レテ取立
由來多キニ依テ日記ニ書ス

十昔當家ノ御先祖敦實親王自ラキ
サミテテ法躰ノ八幡ノ御影代ノ重宝
テコレルリ屋形何ト思召アリテカ今日八幡
宮中ニ細メテ右ノ御影ハ欢喜ノ勅定
定ニ依テ敦實親王依リテ其躰御
法躰ノアリサニテ日輪ヲ載イタキテ御長
一尺二寸ナリ

廿一日浅井ノ郡中枝ノ庄ニ慈惠僧正ノ御
影堂ヲ建立トテ、浅井下野守祐政奉行ス
此ノ僧正ヲ御野堂ニ通ルリテ、浅井下野守
母懐胎ノ時海中ニ坐テ天上ニ向テ處ニ日光來テ
懐中ニ入ト見テ生ルリ慈惠正ノ日天子ノ再
誕ナリト云山門ニハ大師トテテ云勅意ノ義
ハトシ慈惠ハ江尾浅井ノ郡物氏ノ女ノ子ナリ
廿六日駒井伊賀守貞勝卒ス四十九歳遺物
ニ駒井ノ蜘蛛太刀ト云太刀ノ屋形ニ獻ス義實公甚
シトテテ

六月二日屋形上洛公方御不例ノ義ニ依テ立
奉行ノ供奉口ス十日、江東帰城ニテ

廿日今日武佐ヨリ言上ス子細ハ地ニ四尺或ハ
一丈ヨリ下ニ木ノ葉枝ノ朽タレテ掘出ス希
代ノ夏ナリトテ数箇所掘更ニ見ル何レノ
地ニモ如此則掘取ノ物ヲ歎スルニ黒リ朽タレ木ノ
葉ノカタニリタレテ屋形希代ノ夏ナリト固
ノ古キ日記ヲ開キ見テ之ヲ彼記ニ由来此レ有り
栗本ノ郡ニ不限野須藤^蒲生坂田ノ郡ニモ見レ
トテテテテテ何レノ郡ニモアリ國人是レスケ
トト名ケテ今ニ至テ土中ヨリ農業者ノ暇ニハ
是レヲトワテ用ユ

七月二日志賀ノ郡雄翠ノ里一ノ宮ヲ建テ

立是ハ昔日成務天皇景行天皇ノ御禪ヲ
ウケテ成務元年辛未正月七日即位アラ
此ノ里ニテワテテテ彼田路ヲ今日改テテ如此
建立ノ義アリ

七日義賢ノ御館ヨリ出火ニテ旗頭ノ屋
敷十二間寺門三箇所焼失ス

十日洪水江忍海邊ノ在、水ニケおレ里数多
アリ

十五日斯波義宗逝去スルノヨリ告ケ奉
北八日屋形并等佐義賢八幡山義昌京
極ノ亭ニ移リ玉フ北九日觀音城ニ屋形場

城アリ

八月朔日佐々木御社臨時ノ祭礼アリ
今日公方御上使上野豊後守晴長江
東ニ来着ス是ハ上勾ノ御所普請ノ
義ニ依ラ如此

十五日將軍義晴公江忍志賀ノ郡上坂本
ニ出奔ス屋敷天下ニカリ合ス同月晦日公
方上洛ヲサセヨリ供奉之次多ク依テ
不記

九月三日屋形上洛今宵公方ヨリ御上使アリ
上野刑ヲ大輔六角ノ館ニ来テ上意ノ

旨ヲ述フ去ル永正八年舟岡山合戦ヨリ同
十年山科合戦大永六年坂本合戦古子緑
元年九月江忍朽木合戦今度坂本一戦ニ至
テ都テ上度江忍ヨリ天下ニカリ合セヨリ度寔
ニ大悦不斜依之北陸道七箇国ノ管領職宮
權中細言位正三位ニ任セラリキヨシ十リ屋
形甚辞シヨリ 雖然達テ被任ヘキヨシ十リ屋
形公方ノ御心ニ任ヨリ公方ヨリ此ノ義禁裏
ニ奏シヨリニ内ヨリノヨリニ未天下ノ武將夕ニ從ニ
内大臣十人ノ大功アリハトテ諸侯ヲ三位權中細言
ニテ可任日記ニテトテ此ノ義ヲウケ玉ハスサレトモ

將軍仰せ出せり。又十レハ禁裏ノ口宣業
ヤレリテモクニシカラストテ押テ義實公ヲ近江
中細言ト仰せ下レリ。北陸道ノ官領ノ又
ハ武將ノ御マニモナトカテ既ニ官位マテ將軍
ノマニ成行又トテ古實ノ公家八十ヶキモリ
ナリ。

同北一日公方雅意ニ渡リテ内ノ又他ニ
ナレハ諸郷評義有テ先將軍ノ望リモ
叶ハテテコフ朝庭ノ御政リモタメトテ今北
日。至テ内ヨリ勅意有テ屋形ノ近江權中納
言可任トナリ。今更ニ望ミ叶ハトテ用ナレト

トテ綸旨ヲハ將軍ヨリ三條大納言ノ郷方ニ
テカサレ依之江忍ハ中細言ノ綸旨不來ナリ
屋形ハ公方ノ聳トメ殊々天下ノ又若君幼
サノ故只此人リノミテ頼アリ。故ニ如此屋形ハ
モトハ四品ノ宰相ニテウレシケル此ノ官位サハ武
將ノ外ニ今ノ天下ニ雙ハレ人ナレ。最モ將軍ソ
聳君其ノ上度ニノ忠戦ナレハト公方ノ面ニハ
申合ハレトシ。

十月十二日屋形伯父大原中務大夫高保ノ息
高方卒ス。
十九日午ノ刻ヨリ虚空ニ香シキニウヒアウテ

同日酉刻ニヤム

廿一日大洪水雷殛クシテ箕作ノ義賢ノ御館ニ落テ殿門多焼失スサウ人七人為雷ニ死ス

十一月七日高嶋ノ新庄伊賀守實頼ト大野

本加賀守秀次實ト取領サカイノ争論ニ及テ

今日言上ス大野本非公度ニ定テ論取ノ地ヲ

新庄ニ玉ハル

十三日高嶋八人衆ヨリ言上ス大野本土民ニ

申付テ新庄カ取領ト大野本カ地ノ境ニ大

キナル堤ヲワタツク取新庄カ地ニ過半カリ又

シハ新庄カ百姓等コレヲ割スル知處ニ大野

本カ家人多出テ新庄カ地ノ百姓數十人

ウチフセ又依之新庄居城ヲ立テ既ニ大野本

カ城ニ寄セ及合戦郡内ノ面ニ寄合先

テサレキ又早ク不及御下知カト言上テ屋

形甚不真ニテ後藤十左衛門後但馬守ヲ彼地ニツカ

ハニ備方共觀音城ニ召寄テ今十四日大野

本秀資ヲハ箕作ノ義賢一ツカセアツケテ

新庄ヲ池田豊後守實政ニアツケラレ

十八日大野本秀資切腹ス子兵内後出佐守

ヲハ助命ニテ義賢一ツカハサレ

廿八日新庄被召出屋形御あり、新庄義年

未^レ武切ニ似ス大野木^ノトキ^ノ犯人^ニケリ
合^ヒ及^ビ一戦^ニ度^ニ惜^キ義^{ナリ}向^テ後^ケトナ
キ振舞^スル^レト^リテ本領^如元^来ナ^リ

十二月六日尾花武藤^左近兵衛^左方江^見ニ来
テ木村小牟人^ヲ以^テ當家^ノ欲蒙^テ扶助^シ屋形
和^知江^見堀^本園^無秀^日有^如日^異度^{ナリ}
本知^ノトク^ク五百貫^ノ地^ノ志^加賀^ニテ^テ再^ハハ^ル

十日甲斐^ノ武田大膳^{大夫}晴信^{ヨリ}使^節
アリ^鷹ノ羽^千本^ヲク^リ又^屋形^{ヨリ}江^見坂
木園^ノ兼^秀カス^リ夕^ニ矢^ノ根^一千^本ヲ^送テ
再^リ

十日八幡^佐木^ノ宮^ノ兩社^ノ歳^末ノ神^樂カ
リ^{奉行}八^津井^下野^守山^岡掃^頭ノ隨^兵平^子
リ
廿一日將軍^ノ御^使節^ニ今日^黒日^{日向}守^忠頼^ヲ
遣^サル

廿五日勢^見ノ國^司ヨリ使^節有^田村^權ノ守^トテ
者^{ナリ}屋^形對^面ナ^リ是^御下^心有^故ナ^リ
天文^十一^宣年

正月朔^日ヨリ十日^ニテ國^ノ旗^頭長^臣ノ面^出
仕^ノ次^第日^記ニ^不及^載手

十六日屋^形并^ニ義^賢義^昌佐^木宮^社參

佐法例年ノゴトク

十七日旗頭四十六人残ラズ彼ノ御社ニ参リ

十九日国ノ沙門祝等如例年出仕屋形歌仙

ノ間ニテ御對面出世ノ僧ニ御盃アリ

廿四日比良ノ妻宿ニ屋形登山ス供奉ノ面々

旗頭八人近羽白ノ宿老計十リ

廿九日屋形上洛義賢義昌ハ同日辛ノ刻

發足

二月十日屋形并ニ箕作義賢八幡山義昌御帰
城

十四日永原左近大夫細賢卒ス此人ハ當家ノ庶

流十リ殊ニ屋形ノ惠フカキ人十リ依之者五

日リ將軍ノ近習ニ召加ヘ西リ

十九日今日ハ當家ノ御先祖九代ノ家嫡源三秀

義公ノ忌日十リ依之屋形當國長命寺大破

ノ日ニ聞召悉造管ス事ノ日ニ今日戸田石見守

頼秀津田藤五郎成宗兩人ニ被仰付

右長命寺ト申ハ依之木九代ノ嫡領源三源秀

義壽永三年八月十九日伊豆國鳥山ノ進士

家助兵衛尉家清入道平氏乃味方揃筆ニ

處ニ秀義息義清相考ニ追討ノ為ノ責歎テ

終ニ彼ノ色徒九十余人討之雖然彼等ハ為

老密、依テ秀義被討テ時七十三右兵衛
佐頼朝甚悲トアリ 源平無雙ノ勇一ノ切
定ノラニ没後、近江權守ニ任テ頼朝自長命
寺ト号ト當國因嶋ト云嶋山ニ一字ノ寺ヲ建
立ト長命寺ト崇メテ依テ因嶋ヲ今ニ至テ
長命寺トハ申スト彼寺ノ記ニアリ此ノ秀義
公ヨリ依テ本ノ御家ハ次子ニ継昌トテ今屋
形ニ至ルテテ流々ニ別々ニ凡八十餘家ナリ

三月三日旗頭ノ面ト如例御礼アリ今夕に桐
若狭守實時屋形ヲ吾^館錯ニ入シ奉リ夜ニ入
二テ御一門ヲ集メ曲水ノ宴ヲナス屋形甚

悦シ再ニ片桐ヲ召シ汝多年 醫術ヲモシロ
カレノヨシ其圖アリ昔炎帝ノ圖ヲ見カキテイ
タサシトノ再ニテ被遊其繪讚ニ曰炎帝ノ圖并
讚

無常自知 百草滋味 植穀興醫 偉哉聖慈
斤桐是ノ頭戴シ不斜 喜悅ノ筭浦道林
ト云真儒ノ人ニ委リ裏書リイタサセテ吾家
ノ宝リナシケル

十一日若呂ノ粟屋^ヤ氏ア大夫頼宗ヨリ使節アリ
り夢想國師尊氏將軍ノ十三箇条ノ教訓
状リテ彼ノ國師ノ自筆ノ一卷ヲ進献ノ屋形

右此ノ巻ヲ御ウニ有テ寔ニ其沙門、對
面スル心地コフスレトモ甚秘藏シテ又彼ノ國師ハ
傳聞タルヨリハヌクシテ人哉尊氏御尊敬
尤ナリ當時カヤウノ僧有レトモ不覺レテ
リ世次負ニコレ更テナゲキテカ當將軍方
雅意ニ渡リテハ子カフ所ノ物ナリトテ目加
多右馬頭リ御使節トモ公方ニ進献シテ
是ハ御先祖秘シテ物ナリシテ何レノ時カ
紛失シ侍ルリ今義實尋出メ侍レナリ
不断御先祖ノ御形見共思召テ御照
覽可然存候トテ進献シテカ後ニ此ノ更テ

傳聞クニ將軍雅意ニテレシハ此レハ全ク
夢窓ノ諫書ニテハナシ近江義實ノ作テ
昔シテイサムレナリトテサレニ國師ノ自筆
ノ一卷ノ箱ノ底細メカリイダシテ更ナキト
フニコレトウタテキ更ナリト江良マテモキコト申
マレリ

十九伊豆ノ北条左京ノ大夫氏康ノカクヨリ傳
節アリ松田大膳ト云者ナリ關東紙十
竿進献ス屋形便箋ニテイマツ八幡山義
昌ニ仰ケルハ北条ヨリ進物コト其ノ國ノ
有ル物ノナレハリテモ夥クテ却テ其ノ將

心根思_ヒヤラ_ルル_レ仰_セあり_テ義昌_ノカ_クノ_御
返_答ニ_不及_ニ進藤_ノ山城_守中上_ハハ_北条_家
ノ_リ矢_カヤ_ラル_ココ_リ侍_ルメ_ト申_ス此_義ニ_付テ
屋_形古_例ヲ_引キ_テ昔_日山_名伊_豆守_時
氏_カ方_ヨリ_細川_武藏_守頼_之カ_方へ_使節_ヲ
ヲ_以テ_音信_ヲト_ス山_名領_國ノ_物ト_テ熟_シ
セ_ル柿_北箱_ヲ送_ル細_川是_リ請_フ此_ノ人_ノ
心_行ヲ_ハカ_リテ_曰ク_天性_實十_キ人_十リ_一戦_ニ
及_コテ_ハカ_ルコ_可安_リテ_ハ夕_ニテ_山名_明徳_ニ
逆_心シ_テ内_野ニ_テ一_戦ニ_及フ_細川_公
方_ノ御_方ニ_有テ_山名_ト對_陳ス_細川_一

家_ニ向_テ下_知ス_ルニ_彼ノ_熟柿_ノ更_リ思_セ出_ル
元_来山_名ハ_實十_キ者_ナシ_ハ今_日ノ_合戦_ハカ_ルニ_イト
安_ニ虚_將ヲ_ハ以_テハ_カル_トイ_ハリ_テ其_ノ日_合戦_ニ
細_川三_百ノ_勢ヲ_以テ_備ヲ_三ツ_ニワ_ケ山_名カ_勢
ヲ_イサ_セセ_一千_ノ勢_ヲ横_鑓ニ_テ時_ノ山_名ヲ_ノ
ノ_リク_ツシ_侍ル_リ今_北条_ノ進_物是_ニ不_異ト_ノ
ヲ_リテ_北条_ノ使_節ヲ_カサ_ル後_ニ目_賀多_豊後_ノ
守_實三_ヲ使_節ヲ_シテ_氏康_一被_遣進_物ニ_江
江_尾坂_本コ_シテ_スラ_セラ_ル園_ノ至_秀カ_鑓百_本
ヲ_送リ_{あり}
四_月八_日良_山ニ_テ如_来誕_生會_ヲ行_セテ_興田

大津武佐三箇取こしテ八木三千石ヲ取人
施行と云フ 奉行政取職ノ内安元十兵衛
尉山下久兵衛尉苗康五郎兵衛尉大奉行
青地駿河守

十九日今日未ノ日ナリ内々屋形思ヒ立云フ
摩利支天ノ宮リ 觀音城ノ南ノ峯ニ造
營スキヨシ京極ニ帝 高吉ニ仰付ケル

廿六日二条晴良公 觀音城ニ未移と云フ
屋形甚賞し云フ十余日ニテ當城ニ滯
留屋形晴良公一人九ノおノくと明石ノ浦ノ
歌リ昔日ヨリ説こノ語リ傳へ侍ル實説リ

承り度ノヨミヲ望云フ晴良公則書キ傳へ
再リ

五月五日佐々木ノ御社祭祀例年ノゴト屋形
御病氣ノ故ニ社参ノ義ナシ御代参リメニ
井出羽守秀因リ遣サレ飛竜御曹子筆
作ノ義賢八幡山サ將義昌御一門ノ面談
旗頭不殘社参

土日古河ノ晴氏上洛今日鳥本ヨリ上枚右馬
頭リ以テ屋形一案内アリ屋形山崎源太内
左衛門家長リツカハサレ晴氏リ觀音城ニ招
請と云フ 三日晴氏山ニ滯留

十九日山田遠江守信秀病死ス七十三

廿五日木村尾張守高盛非義ノ度アリテ

回リ拂ヒテ是ハ彼ノ息源五郎縁ヒコノ

義ナリ言上ナリトテ公方家ノ内武田十兵

衛尉ア息女ヲ嫁シケル科ナリ

六月三日夜井ノ口五郎八兼春カ家ヨリ赤

キ鼬數多出テ池田孫太郎實政カ屋敷ニ

消矢ス

四日井ノ口五郎八カ屋敷ニ池田孫太郎カ屋

敷ヨリ卯ノ刻ヨリ午ノ刻ニテ白キ氣有

テ其ノ家見テス

十日彼ノ兩人カ館ヨリ十一日ノ卯刻ニテ旗頭

ノ屋敷三十二間町屋七十五町寺社十四焼

矢ス

十五日公方義晴公上野小五郎ウ自ラ討

テ公義ニ箇取御キリ負ヒテ是ハ公

方子ヤウマイノ童子ナリ彼ノ小五郎ニ組ス

ル童子三人アリ依之公方御不覺アリ

廿一日高野山文殊院江良ニ来テ觀音城ニ

出仕屋形回景ノ義ヲ問ヒテ文殊院弘法

ノ教ヲ以テ答ヘ申ス此ノ外種々屋敷ト法問

アリ文多キ故ニ不記

七月四日當四月被仰付摩利支尊天宮
中五箇取ノ宮門ニテ不殘成就ノヨク京
極三郎高吉言上ニ依之明日未ノ刻宮
移トノ義ヲ定メ玉リ

八日九条植通公觀音城ニ來移三日滯留
九日植通公今度勸ノ摩利支天ノ宮ニ
屋形御同道ニテ社向植通公拜殿ニウツメ
仰セラル玉リ我管領ノ弓矢コトフキニ此ノ拜
殿ニ賢聖ノ名書玉リ一キトテ四方ノ板ニ筆
ヲ滌メ玉リ

東一間 東三間 西一間 西三間

馬周 管仲 李勣 桓榮

房玄齡 鄧禹 虞世南 鄭玄

杜如晦 子產 杜預 蘇武

魏徵 蕭何 張華 倪寬

東二間 東四間 西二間 西四間

諸葛亮 伊尹 羊祐 董仲舒

蘧伯玉 傳說 揚雄 文翁

張子房 太公望 陳寔 賈誼

茅位倫 仲山甫 班固 叔孫通

右ハ此系震殿賢聖ノ障子ヲ植通公其

書し侍へりたり屋形甚悦し形
十五日當國保良ノ庄ニ一社ヲ建之ニ奉
和田日向守貞長彼ノ社ハ人王四十七代廢帝
天平宝字五年十月十一日都ヲ江忍保良ノ
庄ニうつサシニ舊都ナリ然レニ屋形今遠キ思
跡ヲ夕サシテ如此

北日此ノ保良ノ旧都管作ノ義當今國召
サレテ今日勅使保良ニ来着一通勅書アリ
當社永為勅願靈社寔先王再興之
地也宜奉祈皇家永久者天氣如此仍執
達如件

天文十一年七月十九日 左大辨

近江國保良社推宿称

北八日畠山民ヲサ輔義宗卒行年四十三
八月三日河内ノ國若江ノ城主河内守實高
カ方ヨリ管丞相ノ被遊し短尺トテ今日
屋形ニ献ス其歌

流行我ハミクツトナリヌ臣君ニカウミトナリテ留ヨ
右此歌ハ管家昌泰四年正月九日左遷ノ
時此ノ一首ヲ讀テ寛平法皇ニ奉リ玉フ

首ナリ讀屋形甚自責有テ是ハ天下無雙
ノ物ノナリテ二条晴良公ニ申委細ノコトハリ
書リ加ヘテ佐ノ木ノ御社ニ細メ再フ

八日梵刹寺大破ニ付テ建立奉行蒲生忠
三郎右此ノ寺ハ延暦五年丙寅三月桓武ノ
天皇勅ニテ創江民ニ梵刹寺彼ノ寺ノ縁記
ニ有コトハ長ク依テ不記

十日今川義元ト織田備後守信秀ト三忍
小豆坂ニテ合戦今川義元四万余織田二千
五百相引ニスルノ東國ハツカハル忍ノ山伏今日
江民ニ歸來テ言上ス十八日

十四日將軍不例依之屋形今日上洛同十八日
江東ニ歸城

廿一日細川晴元ト赤松兵ノサ補義村ト今日
公方殿下ニシテ坐論ノ義有テ既喧嘩

ニ及フ細川晴元四箇取手ヲ負フ赤松義村
五箇取手ヲ負依之公方ノ御取大キニカフキ

京中上下ヲワテ合右ノ義ニ依テ細川赤松
ノ一門分テ既ニ合戦ニ及ビトス將軍ヨリ武田

右馬頭信世ヲ上使トシ江民ニ來リ急キ上洛
クキヨヒナリ屋形近習ニ有合面ニ百三余

騎ヲ引率シテ今宵子ノ刻ニ上洛旗頭四

六人ノ面々聞カケニ上洛ス御一門ノ御方六人
京極計上洛残り八回ニ留リ玉フ
北四日細川赤松両家ノ年論屋形中媒ニテ
兩家和睦ス○北七日屋形江東ニ帰城

江陽屋形年譜卷一終

Handwritten text in vertical columns, likely bleed-through from the reverse side of the page. The characters are faint and difficult to decipher, but appear to be organized into several columns.

